

法人研修感想 保育園における子育て支援

～子ども・子育て支援新制度に伴って、保育園・保育士の新たな役割～

日時：平成 29 年 6 月 3 日（土）15:00～17:00

場所：AP 西新宿 5 階 BC

講師：恵泉女学園大学学長、NPO 法人あい・ぽーとステーション代表理事 大日向雅美先生

【感想】

「支援が必要」である事は多くの方が知っていますが、その「支援」に対する捉え方は様々です。いろいろな「支援」の方法はある中で基本は、家庭での育児の実態、実情を知り、親の立場になって、親の気持ちに寄り添って考え、それが子どもにとって最善かと考える事が第一だと思います。

今回のお話の中で出た、親に近い立場である助産師、サポートの方の中にも酷い事を何の疑問もなく、平然と言う方がいる事実に、驚き、悲しい気持ちになりました。また、オムツの CM で母親が一人で一日何もかもやってへとへとになっている画面に“大変だけどいつかこの思い出が宝物になります”というテロップを入れたものを私自身も見た時には、最後に別の結末が来ると思いましたが(夫などが助ける、誰かが一緒に育児をして笑顔になる等)、まさかその大変なまま終わって、それを賛美するような、我慢させるような内容になっている事に腹立たしく思い、なんて酷い、何も分かっていない。製作段階で大勢の人が係る中で誰もおかしい、と思う人はいなかったのか？と憤りと失望を感じました。

先生から「とちよう保育園で朝食を出しているが、よくやって下さった。周りの人から心配の声があったとの事だが、自分もいろいろやっているが“そこまで支援して親を甘やかしている”“朝食位親がやればいい”“そこまで手とり足とりしたら、親が育たない”等、大体想像がつく。食事の時間は「魔の時間」と言われており、特に朝は戦場である。子どもも親に引っ張られて、怒られてくるより、ゆったりと良い時間が過ごせる。やるのはとても大変であり、生半可な支援マインドでは出来ない。これだけの事をやってくれる人はまだまだ少なく、人は「やらない理由」を見つけ、親を甘やかすと言う」とのお話があり、まさにその通りだと思いました。

時代が変わっていく中で、母親からは「楽になっていない」「待機児童はどうするのか」という意見も多々ありますが、国も 25 年前から何とかしようとして施策を実践してきました。長い間根付いてきた考えや制度を変える事は厳しく、時間もかかりますが「子ども・子育て新制度」が施行され、「保育所保育指針」も改定になるなど、方向性は決まっており、一人ひとりが理解し、考えていけるようにする事が必要だと考えます。

私達は保育園を通して保護者の方と関る事が殆どですので、日々子ども、保護者の方に丁寧に対応し、気持ちに寄り添い、信頼関係を築き、安心して預けて頂けるようにする事が大切だと思います。また、園は地域に根付き、地域の方の協力が必要不可欠ですので、地域の様々な方と良い関係を築いていけるよう、自分達の出来る事を考えて実践出来るよう努めたいと思います。

10 年ほど前から、先生のお話を何度か伺っていますが、先生はいつも「親支援の大切さ、必要性」を篤く語られています。以前から「パチンコを理由に預ける事」についても“理由は問わない。母親が戻ってきて子どもに落ち着いた気持ちで接してくれる事が、子どもにとっても良い影響に繋がる”と、日頃から理事長が述べている事、法人の理念と同じです。「全ての子ども、親に支援を」「社会全体で子育てをする」という事を先生も理事長、法人も一貫しており、支援の基本となる考えを実践している組織に携わる事が出来たことを誇りに思い、再認識出来ました。

法人の根底となる考えをわかり易く学ぶ貴重な時間となりました。ありがとうございました。